遊楽 彩祭

三谷市民文化振興財団ニュース

19 国指定伝統的工芸品・経済産業大臣指定伝統的工芸品「越前焼」
素朴で頑丈な作りが特徴の「越前焼」。日本六古窯に数えられる。

イベント情報

初春の展示 縁起物～織田土人形を中心に～

開催中～3月23日（日）10：00～17：00
休館日：毎週月曜日（祝日・振替休日と重なった場合は開館し、翌火曜日が休館）
雨田光平記念館（越前町織田）
入館料：一般 100円　※中学生以下 70歳以上は無料

館蔵品の中から、人々が新年を祝う縁起物としてきたものを題材にした作品や、書き初めの代わりに制作した作品を展示します。

㊐雨田光平記念館　☎0778-36-2666

重要文化財トピック展示「朝倉館の日常」

1月16日（木）～3月18日（火）9：00～17：00
一乗谷朝倉氏遺跡資料館（福井市安波賀町）
入館料：一般 100円（常設展入館料）　※高校生以下と70歳以上は無料（証明書必要）
㊐一乗谷朝倉氏遺跡資料館　☎0776-41-2301

水中綱引き（国選択無形民俗文化財）

1月19日（日）　美浜町日向

昔、災害による土砂の取り除き作業中に大蛇が出て作業を妨げた。退治しようとその大蛇より長い綱を張って防いだことが事の起こり。

祭りの当日は、早朝より綱をつくり、橋に設置。同時に大漁旗も設置。午後から集合してお神酒をいただく。その間村の代表者が宇波西神社に参拝。午後2時頃、村の代表者が参拝より帰り次第、白いパンツ姿に色とりどりのハチマキをした村の青年たちが次々と橋の欄干等から川へ飛び込み、東西に分かれて綱を引きちぎる。20分くらいでどちらか一方が切れると綱を海の神に捧げるため、外海に流す。　綱：直径30cm　長さ40m

㊐美浜町観光協会　☎0770-32-0222
HP http://www.wakasamihama.jp

第4回 でっち羊かんまつり＆越前おおのふるさと味物語

2月1日（土）、2日（日）
越前おおのまちなか交流センター
多目的ホール及び中庭（大野市明倫町）

大野市内の菓子店の「でっち羊かん」を一堂に集めた味めぐりを開催。その他、いちご大福まつり、実演販売コーナー、特産品や名物の販売コーナーもあります。

㊐大野商工会議所　☎0779-66-1230

大人のためのプラネタリウム スペシャル
星空アルバム ～空と宇宙、100年の思い出～

3月21日（金・祝）～23日（日）　開演17：00～　開場16：45
福井県児童科学館 エンゼルランドふくい 1F スペースシアター（坂井市春江町）

この100年の天文現象や宇宙に関するニュースについて、当時のメロディーとともに紹介していきます。

定員：225名　対象：高校生以上　入場料：大人500円、高校生250円
㊐福井県児童科学館　☎0776-51-8000

一般財団法人　三谷市民文化振興財団
〒910-8571 福井県福井市豊島1-3-1　三谷ビル
TEL：0776-20-3188　FAX：0776-20-3306

2013年12月発行　・このニュースに関するお問い合わせは、☎0776-33-7571（株）コミネットまで

YURAKU SAISAI

ふくいの無形文化財

水海（みずうみ）のばいもしょ　2月13日

池田町 提供

国指定重要無形民俗文化財「水海の田楽能舞」と対を成す、鵜甘（うかん）神社にて五穀豊穣を祈願する伝統行事。神前にて田遊び神事が行われた後、5本の棒が拝殿の外に撒かれ、外で待っていた子どもたちがそれを奪い合う。この棒を境内のイチョウの木に叩き付け、拝殿へ持ち帰った者には大きな丸餅が与えられる。更に参拝者全員に角餅とお神酒が振る舞われ、お開きとなる。

（池田町）

ふるさとめぐり

第六回　敦賀市

伝説

… 一夜松原（松原町）…

昔、蒙古の軍が敦賀の港に攻め入った。その時、大きな地鳴りと共に数千本の松の木が一夜にして生え伸びた。そこへ気比（けひ）神宮の遣いである白鷺（しらさぎ）が、何万羽もの群れを成し飛んできて、木々に止まった。蒙古軍はそれを、おびただしい数の軍旗が翻っていると見間違え、恐れおののき、撤退した。これが今の気比の松原だという。

気比の松原に会いに行く

気比の松原
■住所：敦賀市松島町　北陸自動車道・敦賀ICより 約13分

句碑

浪の間や小貝にまじる萩の塵
松尾芭蕉

「波の間に転がる小貝を拾おうとすると、それに混じって萩の花びらが漂っている。」芭蕉の「奥の細道」に収録されている一句。灰色の砂浜に、萩の花びらと淡紅色の小貝が織り成す華やかなコントラストが美しい。

句碑に会いに行く

色ヶ浜 本隆寺　**■住所：**〒914-0844 福井県敦賀市色浜31-33

その昔、色ヶ浜で流行していた疫病を日隆大聖人が海辺の巨岩の上に3日3晩に渡り、御祈祷の末退散させた。これを機に村人は妙法経力の素晴らしさを知り、日隆大聖人に帰依し、地元の禅宗であった金泉寺を日隆大聖人の教化によって法華宗に改宗。現在の本隆寺となった。

一般財団法人 三谷市民文化振興財団
助成団体募集!!

一般財団法人 三谷市民文化振興財団は、福井県内におけるボランティア活動、スポーツ活動、市民文化活動の振興を通じて「こころ豊かな地域づくり、社会づくり」に貢献することを目的として、2014 年度の助成団体の募集を行います。

募集期間

2014 年春頃 ホームページにて発表

▶募集の要領

●助成の対象分野
・ボランティア活動
・スポーツ活動
・市民文化活動

●助成の対象となる団体

■営利を目的としない次の条件を満たす団体
1．福井県内で活動している団体
2．会員が５名以上の団体
3．設立１年を経過している団体
4．特定の資格・経歴等の条件を必要としない、
個人で加入できる民間の団体

●助成金額 1件あたり約 20 ～ 50 万円

●結果連絡 選考員会による審査で決定し、
団体宛に連絡いたします。
（採否の理由に関するお問い合わせには応じ兼ねます。）

上記より詳しい募集要領がございます。
以下にお問い合わせをしてから、ご応募ください。

まずはお問い合わせを！

★ホームページから募集要領を読む
三谷市民文化振興財団のホームページへアクセス
http://www.mitene.or.jp/m-zaidan/promo.html
または検索エンジンで↓

三谷市民文化振興財団 検索 ＼クリック／

★お電話で募集要領を取り寄せる
☎ 0776-20-3188 （一財）三谷市民文化振興財団

三谷市民文化振興財団の助成団体

福井市

生涯現役 観る人に舞台から元気のおすそわけ
「舞踊クラブ さつき会」

■連絡先 舞踊クラブ さつき会 布川 ☎090-1637-6765

「たくさんのお年寄りに喜んでいただきたい」という願いで舞台に立つ「舞踊クラブ さつき会」。日本舞踊や、懐メロから流行の歌まで、多彩なステージを嶺北の高齢者施設を巡ってプレゼントする、人気のボランティア団体だ。

会代表の布川寿栄さんは約40年前、勤め先の上司に宴会の余興を依頼され、黒田節を踊ったのをきっかけに、日本舞踊の世界に入った。その後、各流派に師事する友人とともに、縁あって高齢者施設で舞を披露したところ好評。同会の発足に繋がった。以来20年活動を続けている。

メンバーのほとんどが70代にも関らず、年間80日ものステージをこなす。生き甲斐にもなっているこの活動を「10年後もずっと続けている」と、布川さんは強く領きながら断言した。

福井市

野球を通し、コミュニケーションの大切さを学ぶ
「湊ダイナマイツ」

高円宮賜杯第 33 回全日本学童軟式野球大会にて

県大会で優勝を果たし、今年初めて「高円宮賜杯第33回全日本学童軟式野球大会」という憧れの舞台への切符を手した少年野球チーム「湊ダイナマイツ」。強さの秘訣は日頃から培ってきた「団結力」にある。

モットーは２つ。１つはコミュニケーションを大切にすること。チームでは餅つき大会やクリスマス会などのイベントを積極的に行い、親睦を深めている。

次に「応援してくれる地元の方々」と「野球ができること」への感謝の気持ちを忘れないこと。これを心掛けるため、地域の奉仕作業などの活動に積極的に参加してきた。

様々な交流を深めることで子どもたちは、ピンチの時でもみんなで支え合っていくという意識を自然と持つようになった。

野球の技術だけでなく、人と繋がる事の大切さも日々学んでいる。

ブンカのカガミ

古来から伝わる鉄文化を修復保護
研ぎ澄まされた美術刀剣に仕上げる
藤川二朗

日本刀を磨く、という仕事。その使命とは？ 役割とは？ そう投げかけるやいなや、藤川二朗さんは迷うことなく「美術文化財を保護していくために必要な、研磨の技術です。古来から繋がる日本の鉄文化を伝え、残すものなのです」と答えてくれた。実用的な刃物とは違い、美術品のように修復する仕事。それゆえ、藤川さんの肩書きには『美術刀剣研磨師』と書かれている。

３代続く研磨師の一家に育ち、20代の時に東京で３年間基本を学んだ後、父親に弟子入り。一番最初に戸惑ったのは、磨くことでもなく、触ることでもなく〝研ぎ台に座ること〟だった。「自分の体重で砥石を支える、千年以上も前から続く姿勢なんですよ。自然に座って磨く、それができない。何度も直されて、刀を研ぐなんて遥か遠い未来のことのように思えました」。

この世界に入って23年。今年は新作日本刀・研磨・外装・刀職技術展覧会で金賞を受賞した。『差し込み研ぎ』という技法で、刃紋の美を高く評価された。

「主流は華やかに、より綺麗に見せる化粧研ぎです。対して私は、本来の刃が持つ鉄の素朴さを見せる技法です。隠された美があるのではないか、という目線で磨く。女性の場合だとすっぴんが一番綺麗だ、と言ったほうが分かりやすいかな」。

話を弾ませながらも藤川さんは「刀剣は鉄の絵画だ」と何度も口にした。

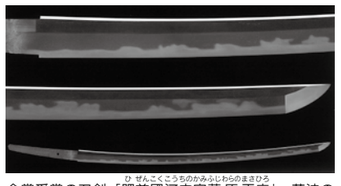
「刀剣には、武器であると同時に、美を見出す日本人の心が宿っています。刃紋を海や山、花など自然に見立て、まるで絵画のように鉄を鑑賞するのです。古い刀剣を手にすると、時代の趣きを感じられます」。

平安時代や南北朝時代の刀剣を手にしながらさらりと磨きに入る藤川さんの眼差しは、まるで当時を生きてきたかのよう。所持していた人や時代背景を想像しながら、心に落とし込んで全身で磨く。

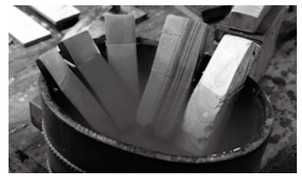
「仕上がると指紋がすり減っているんですよ。それでも日々研ぎ澄まされていく刀を見るのが楽しみでね」。

刀剣を通して日本の鉄文化を伝える。時代に必要な人が福井にいる。

●ふじかわ・じろう／1964年福井市生まれ。20代は音楽に憧れ、東京ではミュージシャンとして活動していたことも。芸術に親しむ生活を送り職に生かす。愛刀家や、刀を保持する旧家、博物館などから依頼がある。



金賞受賞の刀剣「肥前國河内守藤原正広（ひぜんこくこうちのかみふじわらのまさひろ）」。荒波のような刃紋が印象的だ。



砥石は乾いていると脆いが、水を含むと強く、研磨力が高くなる。刀の製造年代に合わせて砥石を使い分ける。